音楽科学習指導案	３年３組（男子 19 名　女子 17 名　計 36 名）	指導者	髙見　麻未
題材名	混声合唱の響き（教材名「虹」）　〔共通事項〕リズム、旋律、テクスチュア		
指導計画	①「虹」を聴き、歌詞の内容や曲想を味わい、リズムと旋律を確認する。（３）（リズム、旋律） ②声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、言葉の発音や発声を工夫して歌う。（１／２）（テクスチュア、リズム、旋律）	本時の目標	・声部の役割と全体の響きとの関わりを生かし、言葉の発音と発声を工夫して歌うことができる。（音楽表現の技能）

配時	○学習活動　・予想される生徒の反応	☆教師の手立て　※評価（方法）
3	○身体運動と発声練習をする。（全体）	☆口の開け方がよい生徒等を紹介しながら、雰囲気づくりをする。
3	○本時の課題を確認する。（全体）	
	歌詞を生かすためには、どんな発音や発声をすればよいだろう	
10	○13～20 小節目の楽曲の特徴を読み取り、歌う際の工夫を発表し合う。（全体） ・13, 14 小節は、男声→アルト→ソプラノの順に歌い出している。 ・歌い出しの言葉を伝えるために母音と子音を意識して語頭を深く歌えばよい。 ・15 小節目「ゆびをたて」でリズムがそろうので、３つのパートを合わせたい。 ・リズムをそろえるために手拍子で確認したい。 ・16, 17 小節のソプラノは、副旋律なので、主旋律を生かした歌い方をしたい。 ・副旋律は、息を混ぜて柔らかく歌えばよい。	☆13～20 小節の拡大楽譜を用意し、自分の担当する声部と他の声部との役割を理解できるようにする。 ☆子音や母音の発音の仕方、発声法等、具体的な技能についてアドバイスする。 ☆表現の仕方を全体で共有し、パート練習につなげる視点を指示する。 ☆「練習のポイント」を板書する。
15	○パートに分かれて練習し、アドバイスし合う。（パート） 〈練習場所〉ソプラノ（第２多目的スペース） アルト　（第２音楽室） 男声　（第１音楽室） ・柔らかい声を出すために、たくさん息を使おう。 ・腹筋を意識してみてはどうか。 ・言葉の意味を考えれば、発音がはっきりするかもしれない。	☆男声→ソプラノ→アルトの順に適宜巡回指導する。
10	○パート毎に発表し合った後、全体で練習する。（パート、全体）	
6	○合唱を録音し、発音や発声の状態を確認する。（同じパートのペア） ・３つのパートのリズムがそろい、言葉がよく伝わるようになった。 ・パート毎だとうまくいくが、全体だとまた違う工夫が必要ではないか。	☆本時の課題や挙げられていた留意点を意識して聴くよう指示する。 ☆音を聴かせ、言葉の発音や発声を工夫することによって表現力が深まったことを実感できるようにする。 ※声部の役割と全体の響きとの関わりを生かし、言葉の発音と発声を工夫して歌うことができたか。（ワークシート・観察）
3	○本時の学習のまとめと次時の課題の確認をする。	☆改善点等を次回の練習に生かすことを伝え、意欲につなげる。

研修主題解明の手立て
・生徒の意見を双方向に関わらせるための教師の発問や指示